



2018年12月22日土曜日、米の山病院多目的室において毎年恒例の「第14回医系学生奨学生ミーティング」を開催しました。医学生1名、薬学生2名、看護学生5名、職員合わせて合計15名の参加がありました。今年も親仁会の医療・地域活動を学ぶことを主題として、大牟田市吉野包括支援センターにおいて実際に働いている職員の講義、民医連の医療・介護を考えるDVD「笑って死ねる病院」「キラリ看護～中友診療所」を鑑賞。グループワークのテーマ「民医連の医療・介護を実践していく者として、将来、どのように関わっていきたいか」を進行担当の学生を中心に感想を述べながらグループの中でまとめ上げました。全体ではグループの代表者が発表し、みんなの意見を共有しました。交流会でのボーリングでは学校や学年、職種を超えて学生同士の交流はもちろん、職員ともに大いに盛り上がりました。1日という短い時間でしたが、お互いのことを知り、職種を超えて交流でき、次の年に向けて思いを新たにできる良い機会となったようでした。

講演・DVD鑑賞

吉野包括での事例を語っていただきました



アイスブレイク

みんなに参加し、うちとけていきました・・・

Who am I?
～私は誰でしょう?～



講演・各事業所の説明・年間活動報告などを通して、自分たちが感じた事や学んだことを、記載してもらいました。学生さんの発言や感想をご紹介します。

大牟田市の置かれている状況が日本全体の20年後ときいて驚いた。(医学生)

大牟田市は日本の中でも高齢化がかなり進んでいるので地域活動がより大切になってくると思った。(薬学生)



他の職種の学生さんの話を聞いて良かった。

(看護学生)

他学部の方とグループワークをすることで自分自身の視野もひろがって新鮮で貴重な体験ができた。(薬学生)

地域の方に寄り添っている看護をされていると感じた。(看護学生)

様々な活動があるので、リフレッシュする気持ちで取り組んでいきたい。(看護学生)

看護師が病院だけでなく地域包括支援センターなどで働いていることが分かった。(看護学生)

いろんな活動に参加してきたが今日が一番交流できた。(看護学生)

グループワーク

まずは感想を述べ合って、一人ずつ発言していききました



ボーリング交流会

各チーム豪華粗品をめざし、がんばりました(^^)v

